

。すずのおとなったのでで、 ぐのでまるが制型と計団本日が山大山熱の お原、JCよコ値話な道妣るよコ
ヨの在民による地道なる地である。 灰蛍以、水ち战開竹業事蓋料や(るて育て あるす割愛:>いぶ) 育無いよう16丑愛類 ・ 佐々木梅吉氏ら、 同年に本吉側の故・ の側SM表に気がある。 品和ST年に気息の こなる諮問大のででですの計画、2代3 おろうけいろし、一部のでんべんが上でいる 于× 5 > 7 0 川 文 県 劉

2021.3

へまちなその苦結来ご

[(>知のる>) 郊理黒]、竹帯一貮山、永価こ して明治に造られたもの。その後幾度もの いた。現在の登山道の一部は「火防線」と フパち用 ほ フノム 世 草 郊 か 萱 お 楓 車 火 山 や ホ人火 、(Vあ"\ L山雄山熱」 式し融料多齢 でます25時間され関係五大おご山支山

オワオでおふ而各のでツツ









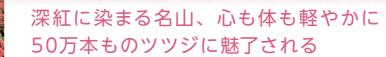


。もでた熱の山大山熱きのるきで興齢に発表された変い移の然自な代豊 。もまめし楽さ葉球のどなど、ツやタ木のタ山、おごり

。もまきでき業備で代浸浴林森、るべなしコ耳ずきらせせの流青る水流途中の森 、わて「蘇人奥山新」るあい側沿山炭、さま。でまきがんろこはし楽多景鮮のそれ頁山 バン交び新がさずがくイ、多響が即合大の [ミサハバベエ] 式炒コ青を訓の塾、夏欣 。もまえこ間がいでえちの「ストでや」され山

裡るあきで東宝の鳥裡、多知や草裡山の夕渡。をでろこるきで脚帯で代戻赴婚多 





宮城県沿岸北部、気仙沼市の徳仙丈山は標高711m。日本屈指のツツジの 名山で、5月中旬から5月下旬には50万本ものヤマツツジやレンゲツツジが全 山を深紅に染め上げます。周囲の緑との対比も美しく、赤く染まった山頂は、 遠く離れた平野部からも見えるほどです。

山全体がツツジに覆われる名山

登山口は北と南の2カ所。北の気仙沼側登山口からまず、果てしなくツツジ の赤が広がる「つつじが原」を見渡す第一展望台へ。さらに、第二展望台か ら眼下には、ツツジと太平洋の紺碧が織り成す雄大な風景が迫ってきます。そ の先は、人の背丈を超すほどのツツジを見上げながら、「つつじ街道」を通っ

南の本吉側からの登山者は、まず登山口駐車場のそばに湧く清水「長命清 水」でのどを潤し、二つのコースから道を選んで進みます。のんびり作業道コー スは、広い作業道を利用したゆるやかな道。登山の雰囲気を楽しみたい人には、 尾根道コースがお勧めです。両コースとも山を覆い尽くすツツジや太平洋の美 しい展望を満喫しながら、歩くことができます。

気仙沼側、本吉側、どちらから登っても山頂までは40分ほど。山頂の手前 に急なこう配がありますが、ゆっくりでいいので、ぜひとも頂まで挑戦してく ださい。そこには360度ぐるりと見渡せる絶景が待っています。視界を遮る高 木がないため、天気が良い日は、東にリアス式海岸が続く太平洋、大島、南 に金華山、北東に五葉山、西に栗駒山、北に室根山、大森山を一望。また、 自然保護を願い、登山者の労をねぎらおうと、樹齢1,000年以上のツツジを 御神体とする石造りの徳仙丈山神社も建立されています。

昔、屋根葺きや農耕馬用の採草地だったことから、山焼きが行われ、その 火防線は現在の登山道の一部となっています。山焼きや伐採など、多くの試 練を耐え抜いたツツジ。その成長の陰には、本吉側の「徳仙丈山つつじ保存 会」、気仙沼側の「徳仙丈の自然とつつじを守る会」とその意思を継いだ「徳 仙丈のつつじを愛する会」の長年にわたる保護活動の尽力がありました。

気仙沼側には清らかなせせらぎの「徳仙奥入瀬」があり、大きな岩を抱いた 「岩抱きけやき」をはじめ美しい風景が点在しています。徳仙丈山は毎年開花 時期にはつつじまつりが開催され、ツツジを愛する地元の人々や観光客で大 いににぎわいます。



圧倒的なスケール感で咲き誇るツツジは、

ツツジの回廊をくぐり抜け、山頂から眺めを見渡せば、

遠くリアス式海岸の美しい景観と、 眼下の燃え立つようなツツジとのコントラストが

日本屈指の名所となっています。

織りなす風景を満喫できます。

気仙沼側からのつつじ街道

本吉側からの徳仙丈山全景





